



# 日本を護る会 レポート

日本の伝統・精神の次世代への継承

第 47 号(令和 5 年 6 月)

## 理事長挨拶：

「日本を護る会レポート 47 号をお届けします。

4 月 21 日(金)には駐日アゼルバイジャン共和国特命全権大使のギュルセル・イスマイル閣下を講師に迎えて第 101 回定例会を行う予定でしたが、同大使に本国から急遽来日する要人の接遇の公務が飛び込んでしまい、止むを得ずこの定例会を 6 月 17 日(土)に延期して第 102 回定例会として盛況に行いました。

また、5 月 20 日(土)には当会として初めて現職の国会議員として有村治子参議院議員を講師にお迎えして、第 101 回定例会を行い、有村議員の熱誠溢れる「日本の科学技術を高めるために」と題する御講演を戴きました。

ここ数ヶ月の傾向としては参加者数が逐次増加し、特に女性の方の参加者が多くなっている事を大変喜ばしく感じております。当会は今後も我が国の発展のための活動を続けたく思いますので、希望される活動企画がございましたら積極的にお知らせ戴きたくお願いします。

梅雨期の不順な候ですので、皆様、御健康には十分御留意の上、益々の御発展をお祈り申し上げます。

理事長 大橋 武郎

## 第101回 定例会

演題： 「日本の科学技術力を高めるために」  
講師： 参議院議員 有村治子 氏

日時： 令和5年5月20日 14時～ 於： 銀座サロン・ド・ジュリエ(Salon de Juliet)

当会の第 101 回定例会は講師に参議院比例代表区(全国区)選出の有村治子議員にお願いしご講演を頂きました。講師はさすがに気鋭の国会議員らしく明瞭かつユーモアに富んだお話しで会場一杯の参加者を魅了しました。なお有村議員は呉竹会の頭山興助会長にご紹介頂きました。ここに篤く御礼申し上げます。



### 講師略歴：

昭和 45 年石川県生まれ、滋賀県育ち。

平成 13 年参議院選挙全国区比例代表にて初当選。現在 4 期目。

文科大臣政務官、参議院 環境委員会委員長、安倍内閣にて初代女性活躍担当大臣、少子化担当大臣、行政改革担当大臣に就任。

令和元年 7 月 4 期目当選、参議院自民党政策審議会長、裁判官弾劾裁判所裁判長等を経て現在、国家機密を扱う参議院情報監視審査会会長等を務める。2 児の母。

## 講演内容

- 国力とは何か（会場に問い参加者の意見聴取を経て）教育、人口、経済力、防衛力、外交力など様々な意見があり勿論どれもが正解の一つだが科学技術力も重要な国力である。米国における博士号取得者の出身国を見るとまず米国 35000 人強（2019）に対し中国約 6300 人、韓国 1160 人、これに対し日本は何と僅か 129 人と韓国人の 10 分の 1 でありしかも 2010 年に比し殆ど半減している。中国はこの間約 7 割増。
- それでは主要国の人口 100 万人当たりの博士号取得者は、と言うと 2002 年には米・仏・韓と日本はほぼ同数（150 人位）であったがその後各国は全て右肩上がり増加しており 2005 年の博士号取得者の絶対数は以降米国と中国は倍増、日本だけが 唯一下降傾向なのである。
- 科学力を測る指標としては引用される科学論文数がある。2000 年頃には引用される論文数に於いて日本は米英独に次いで 4 番であった。日本の凋落はここでも激しく 2017~2019 年の調査に於いて 10 番に下がり（1,2 位は中、米）18~20 年の調査では 12 番に下がってしまっている。中、米が 1,2 位であることは変わらず韓国やインドにも抜かれてしまった。
- 国家公務員は長時間労働や「自分の能力が活かされない」という不満からキャリア官僚の志願者が減っておりさらに若年層の退職も増えている。博士号取得者に対する敬意を適切な処遇の仕組みに織り込んでいない国家公務員人事制度に問題があるのではないか。大卒入省、修士号取得後入省、博士号取得入省 はいずれも定年は 60 歳で院卒ほど勤務期間が短くなる。生涯賃金の差があるかは人事院は把握していない。
- 学術界を除いて博士号取得者の活躍が一般社会では見えにくい。存在に気が付かず敬意を払わない社会になっているのではないか。特に報道ではノーベル賞受賞者にも〇〇博士とは言わず 〇〇さん、〇〇氏、せいぜい〇〇教授である。ご本人も自分の名刺に博士の肩書を刷るのを遠慮するような風潮になっている。企業の研究者や管理職に占める博士号取得者の割合は他国に比して低い。
- 国連の 15 の機関のトップ（局長）の 13 人は博士か修士だが日本が唯一局長を出している万国郵便連合の局長は学士。日本人が相手にする国際機関のカウンターパートの多くは博士か修士。外国の政治家にも博士が多い
- 以上見ていくと「日本は本当に学歴社会？」と疑わせる。博士を大事にしない日本が科学技術立国でいるのは難しい。大学は学術界以外でも社会をリードする博士号取得者を養成してほしい。経済界も優秀な博士人材を積極採用・登用していくよう税制優遇等の政策誘導をしてゆきたい。



## 講演会



## 懇親会



## 第102回 定例会

演題：アゼルバイジャン共和国 — 独立後達成した目標— 政治・経済・外交中心に —  
講師：駐日アゼルバイジャン共和国特命全権大使 ギュルセル・イスマイルザーデ閣下

日時：令和5年6月17日 14時～ 於：銀座サロン・ド・ジュリエ (Salon de Juliet)

### 講師略歴



1971年 バクー生まれ。

2000～2004年 上智大学大学院博士後期課程外国語学研究科国際関係論専攻、国際関係論修士満期履修。

2005年 駐日アゼルバイジャン共和国1等書記官、2006年 参事官、副大使、2010年 駐日アゼルバイジャン共和国外務大臣補佐官、

2011～2019年 駐日アゼルバイジャン共和国特命全権大使、

2019年 アゼルバイジャン共和国外務省人事局長、

2020年3月～ 駐日アゼルバイジャン共和国特命全権大使

当初、令和5年4月に予定されていた講演会でしたが大使のご公務の関係で6月に延期になりました。

アゼルバイジャン共和国のお話ということで南コーカサスのこの国の状況をよく知りたいという聴衆が普段より多数参加して日本語の堪能な大使の話に熱心に聞き入り、活発な質疑応答がありました。

アゼルバイジャン共和国への日本人の入国に際してはビザが不要とのこと、魅力的です。

以下、大使のお話の要点を御紹介致します。

アゼルバイジャンはカスピ海の西海岸に面してユーラシア大陸の中心に位置しています。

イスラム世界における最初の民主的な共和国として1918年にアゼルバイジャン民主主義共和国を設立し、イスラム世界で女性達が選挙権を持つようになった最初の国でした。残念ながら1920年に独立を失いました。1991年に再び独立国になり、32年にわたりイルハム・アリエフ大統領の指導のもと繁栄と栄光の歳月を歩んできました。我が国は全世界に向けて新たな開発モデルを発表しています。

従来の石油を中心とした産業から人的資源に基づく産業への移行を図りつつあります。

この10年間のうちにGDPは実に4倍以上にも成長を遂げ、積極的に投資活動に関与し、この地域で展開されている大規模な国際的プロジェクトで主導的な役割を果たしています。

日本は、1991年12月28日にアゼルバイジャン共和国の独立を承認した国々の一つです。

外交関係は1992年9月7日に樹立されています。今日、両国の関係は地域的及び国際的レベルでの重要な対話、並びに政治、社会経済、人道をはじめとする多様な分野での協力関係に主眼を置いた戦略的パートナーシップとして進化しつつあります。

## 基本情報

公式名称: アゼルバイジャン共和国  
独立日: 1991年10月18日  
国家体制: 大統領共和制  
位置: ロシア(北部),トルコ(南西部),グルジア(北西部),  
アルメニア(西部),イラン(南部)  
首都: バクー  
人口: 1001万人  
国土面積: 86,600km<sup>2</sup>  
国家語: アゼルバイジャン語  
宗教: 人口の95%以上がムスリム

## アゼルバイジャンの歴史

- ・ 1828年 Turkmanchay 条約によりロシア帝国とペルシア帝国がアゼルバイジャンを占領する。北の地域はロシア、南の地域はイランの一部になる
- ・ 1917年 ロシア帝国の崩壊
- ・ 1918年 アゼルバイジャン民主主義共和国設立
- ・ 1920年 ロシアの赤軍によりアゼルバイジャンの占領、アゼルバイジャンはソ連連邦の一部になる
- ・ 1991年 ソ連連邦の崩壊、アゼルバイジャンの再独立国家
- ・ 1992-94年 第一カラバフ戦争、アルメニアよりナゴルノカラバフと周辺領土の占領
- ・ 2020年 第二カラバフ戦争、アゼルバイジャンの戦勝、占領されていた領土の解放



1969年から82年にかけての最初にリーダーとなった期間に、Heydar Aliyevの貢献により、社会経済的、科学技術的、文化的なそれぞれの分野の発展に際し、非常に短期間で多大な進歩を遂げたのです。彼の並外れた経営手腕、鉄の意志、そして愛国心のおかげで、発展途上のソビエト共和国の一つだったアゼルバイジャン共和国は高度に発展し、国の主要な共和国の一つとなったのです。

前世紀の1990年代に国家としての独立を回復したアゼルバイジャンは、アルメニアの侵略や、外圧、内戦により、世界の政治地図から抹消され、国家としての地位を失うという脅威に直面していました。1993年、アゼルバイジャンの運命が決まる困難な時期に、民衆の要求に耳を傾けて権力の座に戻ったHeydar Aliyevは、母国を救うために比類のない無欲さを示したのです。

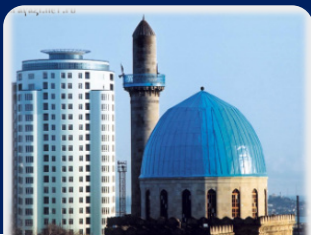
## 2022年の経済状態

GDP	— 700 億ドル
1人当たりのGDP	— 6900 ドル
GDP成長率	— 2.2% (非石油部門の成長率は2.5%)
貿易の売上高	— 150 億ドル (輸出97億ドル, 輸入53億ドル)
インフレ率	— 7.2%
失業	— 5.2%
投資額	— 150億ドル (国内56% + 国外44%)



## アゼルバイジャンの宗教

- ・ 拝火教の聖地
- ・ 世俗的社会
- ・ 政治と宗教の分立
- ・ 様々な宗教の共存



## 観光



- ・ 11の気候帯のうち9つの気候帯を持つ
- ・ 独特の気候と多様な地形
- ・ 山と温暖な海、薬効のある温泉
- ・ 泥火山と天然ガスが噴出する地域

## アゼルバイジャンと日本の二国関係

- ・ 外交関係開設日 1992年9月7日
- ・ 在アゼルバイジャン日本大使館開館 2000年1月21日
- ・ 在日アゼルバイジャン大使館開設2005年10月12日
- ・ アゼルバイジャン日本議員連盟 (甘利大臣が会長)
- ・ 日本・アゼルバイジャン経済合同委員会(伊藤忠商事)

静岡県伊東市と友好交流協定を結ぶイスマイリ州のハイダー・アリエフ公園に初めての日本庭園が作られ、アゼルバイジャン共和国大統領夫妻が訪れました。



## 講演会



## 懇親会



## 事務局からのお知らせ

- \* 本年度は基本的にコロナ禍が懸念される中においても当会は積極的に活動を行うことができ大変有意義な年度となりました。皆様のご協力に感謝申し上げます。
- \* 現在の会員数はほぼ50名ですが、これからの会の発展を考えますとまだまだ数が少ないのが現状です。大きな課題の一つは会員の定例会に参加する数が限られていることです。理事会では会員のメリットを生かすために会員の定例会参加費を2,000円から1,500円に減額しました（非会員は2,500円）。  
皆様の積極的なご参加をお願いいたします。

- \* 認定取得に伴い、寄付を行う個人、法人にとって税額の控除が受けられるという利点が得られることになりました。皆様方、お知り合い、または法人に広くご協力を頂けますように皆様のお力添えをお願いいたします。そのための資料が完成しましたので近々皆様のお手元に届くこととなります。皆様のご協力を切にお願い申し上げます。
- \* 現在事務局では人手が足りなく危機的な状況になっており、そのために前担当欄にて経理作業のお手伝いを頂ける方を募集しましたところ、非会員の方が会員になりボランティアで仕事を引き受けて頂くことになりました。誠に素晴らしいニュースをここで皆様にお知らせします。さらに受付作業を含め、会の運営にお手伝いいただける方を歓迎いたします。

### 今後の予定

- \* 7月17日(月) 第39回研修会 場所：海上保安資料館 横浜館  
詳細：会員への案内メールご参照
- \* 8月吉日 第40回研修会 場所：米軍横田基地 (予定)
- \* 9月16日(土) 令和5年度総会 於：サロン・ド・ジュリエ

原則、メールにてお申し込み下さい。

### <年会費お支払いのお願い>

当会の会計年度は7月1日から翌年の6月30日までです。  
規約には年会費は7月1日から9月30日の3ヶ月間内に支払うことになっております。よろしくご理解のほどお願いいたします。

年会費2,000円+篤志寄付金(1,000円以上からお願いいたします)  
(篤志寄付金には、税制優遇措置が受けられます)

### 年会費お振り込み先

ゆうちょ銀行

店番号 038 普通預金 記号10380 番号92589171

口座名義 トクヒ)ニホンヲマモルカイ

日本を護る会・レポート 第47号 令和5年6月発行  
編集発行: 認定特定非営利活動法人 日本を護る会  
ホームページ: <http://awake-japan.sakura.ne.jp>  
E-mail : [awake-japan@googlegroups](mailto:awake-japan@googlegroups).